

那賀川水系河川整備計画（那賀川流域市町長の意見を聴く会）
議 事 要 旨

日 時：平成18年12月19日（火）15：00～17：30
場 所：阿南市文化会館 1F視聴覚室

議事要旨：以下のとおり

【阿南市長】

長安口ダム改造事業、那賀川無堤防地区、桑野川右岸無堤防地区の整備の明記についてお礼を申し上げる。

加茂箇所支川の改修方式について早急にまとめていただきたい。

長安口ダム貯水池上流に堆積した砂レキの下流河道への投入を早急を実施していただきたい。

河川整備の護岸等には可能な限り植生や地元産の石を使っていただきたい。

国営農地防災事業による堰の設置や撤去は、川の流れ等が変化するため、農林水産省とよく協議して実施していただきたい。

那賀川アフターフォーラム、河川清掃のアドプト団体といった住民団体と一体となって事業等に取り組んでいただきたい。

環境基準の指標であるBODが、本川よりやや高めとなっている岡川については、汚濁源削減対策の啓蒙活動を一緒になって取り組んでいただきたい。

【事務局】

長安口ダム改造事業、那賀川、桑野川無堤防地区の整備を手がけていきたい。

加茂地区の無堤防地区の解消については、徳島県や地元の皆さんと調整しながら具体的な河川の整備計画について一緒に考えて行きたいと思うので協力願いたい。

長安口ダム下流への砂レキの投入については、国土交通省としても徳島県と調整しながら引き続き実施していきたい。

下流の災害復旧工事では花崗岩の巨石を使用している例もあるが、今後は地元産の石や地域になじむ材料、構造を目指していきたい。

統合堰については、上流の樹木の伐採、河床掘削の計画などもあるので、農林水産省と一緒に進めていきたい。

那賀川アフターフォーラム、そして市民活動等とは、今後とも一体となって協働という形でやっていきたい。

岡川の水質改善については、河川管理者だけでは難しい問題でもあるため、地域の方と阿南市と一緒に取り組んでいきたい。

【小松島市長】

小松島市は、那賀川に接していないが、当市の立江等は旧那賀郡であり、田畑など水の恩恵を那賀川から受けおり、小松島市としてもこの整備計画については考えていかなければならない。

早く素案をとりまとめて早く整備を実施していただきたい。

小松島市は低地帯であり、那賀川の堤防が決壊すると浸水被害を受けるので、特に堤防の漏水対策については十二分に対策・対応していただきたい。

長安口ダム の堆積土砂の対策について、半永久的に堆砂対策が実施できるのか疑問である。いろいろな研究をしていただいて、土砂対策を進めてほしい。

今後30年以内に50%の確率で発生が想定されている東南海・南海地震、津波について、堤防の決壊や沈下などに対してどう対応するのか計画の中で練って頂ければと思う。

【事務局】

那賀川の左岸側堤防が決壊すると小松島市に洪水が流れるので、堤防の漏水対策・深掘れ対策などを点検しながら急ぐところは対応していきたい。また水防団による水防活動等の協力を各市町長にお願いしたい。

長安口ダム の堆砂対策については、排砂バイパスも含めた技術・工法を怠りなく勉強して、永久的に使える技術・工法、そういうものができればと思っており、これからの課題として勉強していきたいと思う。

大規模地震対策として具体的な補強方法についても、今までの経験を踏まえて、逐次、対策を考えていきたい。

【那賀町長】

国土交通省、徳島県に対し、那賀川水系河川整備計画（素案）の公表に深く感謝を申し上げる。また、長安口ダムについては国土交通省が直轄を予定し、概算要求されているということで、そのことが実現することを心から願っている。

清流の復活を整備計画の大きな柱としていただきたい。（素案P89）

濁りはSSで示されているが、濁度という表現も入れたらわかりやすいのではないかと。また濁りの解消の意味でも砂レキを流していただきたい。大きな石も混ぜてダム下流へ流せば、和食あたりで止まるのではないかと。

長安口ダムを改造し、操作ルールを変更することにより、4~5,000m³/s規模の洪水に対しても現在より河川の水位が下がるようにしていただきたい。（素案P98）

新しい長安口ダム の操作ルールは、浸水対策施設ができた時に適用しようとしているのか伺いたい。

100年に1回の洪水への対応が将来目標ではあるが、毎年のように洪水被害を受ける住民の苦しみを少しでも緩和するための具体的な方策を検討していただきたい。

河川防災ステーションを那賀川の上流域にも設置していただきたい。（素案P105）

和食地区で8,200m³/sの対応を実施するとなるとEL54mの浸水防御施設が必要と考えられるが如何か。（素案P116）

住宅部分だけ浸水から守られ、田畑は今までどおりというのであれば、なかなか住民の理解が得られないと思う。そういった浸水に対しても農林水産省に働きかけていただきたい。

和食、土佐、出原、平谷地区以外にも、旧相生町の谷内川下流の老人ホーム等浸水の危険性が高いところがあるため、そういった箇所の対応をお願いしたい。

出原地区の2,100m³/sは平成17年の14号台風を基にしており、雨量は52mm程度だと思う。同じ流量2,100m³/sでも河床が上がると水位も上がるのでそれを踏まえて今後も検討していただきたい。

土砂の掘削の対象範囲は、川切地区だけでなく木頭地区全体としていただきたい。

素案P118には整備イメージ図が記載されているが、具体的な施策の実施に当たっては

地域住民と十分に協議のうえで進めていただきたい。

素案P121の平谷地区(宮ヶ谷川)は長安口ダムのバックウォーターで浸水している。EL230m程度の堤防を計画しているが、具体化に当たっては、移転、嵩上げを含めて地域の住民とよく話し合っていたいただきたい。

那賀町にも工業用水があり、利水の安定確保について今後ともご支援頂きたい。(素案P134)

長安口ダム貯水池上流の土砂を除去することになっているが、年30~40万 m^3 の土砂流入に対し、木沢地区の土砂除去のみを考えているのかどうかお伺いしたい。(素案P134) 濁水時に乾いた部分の土砂撤去も考えてほしい。

長期的に河川水を濁らせる浚渫のような対策はやめていただきたい。

大災害時には土砂が100~200万 m^3 入ってくるため、抜本的な対策(新しい技術、排砂バイパス等)についても検討を実施していただきたい。

森林、田畑を守るよう、農林水産省等とも連携して取り組んでいただきたい。

雨量計、テレメータも少ないところについては配置していただきたい。

【事務局】

「昔的那賀川はきれいだった」ということを流域の皆さんからも聞いた。そういうことを目指していきたい。掘削した土砂については粒径等調査し、大小の石を混ぜるなどできるだけ自然な形で土砂投入していきたい。

濁りの指標としては濁度、透明度などがあるので、どういうものが分かりやすいのか研究していきたい。

長安口ダムの操作ルールは、戦後最大洪水であるジェーン台風規模の洪水に対応するよう長安口ダムの改造を計画している。ただし、下流の無堤地区対策が出来上がった段階で新しい操作ルールにするのではなく、下流の対策の進捗状況に応じたダム操作ルールを段階的に見直していきたいと考えている。

長安口ダム貯水池上流の土砂排除については、これ以上有効容量を減らすことはできない状況となっており、多少のとりこぼしはあるが、できる限りの力を導入してでも貯水池に入らないようにしたい。技術の進歩とともに効率的な土砂除去の方法を、排砂バイパスも含め今後とも研究していきたい。

土砂排除については、まず坂州木頭川の上流端に溜まっている土砂を取り除くのが大事であると考えている。

貯水池内の浚渫は考えていないが、ダム水位が下がったときに上流端の土砂をなるべく除去して貯水池に入らないようにしたい。

河川整備計画を早期に策定したいと考えている。整備が及ばないところについても河川の水位、雨量などの情報を周知できるよう努力したい。また町のほうでもハザードマップの整備をお願いしたい。

上流の県管理区間での防災ステーションは考えていない。しかし、水防活動も伴うこととなるので町のほうでもそういった適地があるかどうか具体的には一緒に考えていきたい。

和食地区は戦後最大洪水対応の計画となっているが、具体的な計画はこれからで、現地に入り測量してからになるかと思う。既設の道路等を使って堤防の肩がわりをするイメージを考えているので地元の皆さんと相談させていただきたいと思う。

農地への浸水対策については、河川整備計画の中では農地が守れないところもある。長期的には対策が必要と考えているので、ご理解願いたい。

谷内川下流の老人ホームについては、本当に大丈夫か、再度検討してみたいと思う。出原地区は、河床変動により浸水被害が変わるが、一定の高さで河床を管理するのは難しいため、堤防で守りたいと考えている。また、時間最大雨量（出原地区の平成17年台風14号）は63mmである。

平谷地区の宮ヶ谷川は長安口ダムのバックウォーターの心配もあり、地域とのコミュニケーションを大事にし、移転がないようにしたいが、具体的な計画については地元と相談していきたい。

雨量計、テレメータについては、徳島県の機器更新の時期が来ており、その中でいくらか増設しようと考えているので、今後検討していきたい。

【美波町長】

美波町は、那賀川の支流赤松川があり、川口ダム直下に流入している。赤松は、農業について熱心でコミュニティも発達している。治水面では安全だと思っていたが、3本の谷で山腹崩壊があり、田畑の表土を流出している。

赤松ダムは、魚道が生態系を壊しているのではないかという疑問の声がある。昭和60年頃には40種類の水生動物が確認されていたが、最近の種類・数が減少してきている。カ二等の遡上にも適合した魚道の工夫が必要である。

山腹崩壊が起因して農業用水路の取水口に土砂が堆積しているため、何とかしていただきたい。

我々行政は、住民と親しみ、川を共有の心のシンボルとし、国、県、町の管理で川の安全と環境を守っていくことが必要であると思う。複数の多くの人々が連携をとる機能が大事である。

【事務局】

赤松ダムは、川口ダムに水を取り込み発電することを目的に造られたものであり、下流に維持流量を流す義務付けはないが自主的に下流へ水を流している。魚道については、施設の管理は、徳島県企業局なので水利権の更新時期などに協議していけたらと思う。

取水堰は農業のための許可工作物なので、堰を管理している農業関係の方に維持管理をしていただくのが大原則である。災害復旧で実施できるかどうかは個別の状況を見て判断したい。